



# JTRUST

2016年3月期 第1四半期

## 決算説明資料

2015年8月

Jトラスト株式会社

# 目次

## 1. 2016年3月期第1四半期決算業績

## 2. 事業別業績

## 3. トピックス

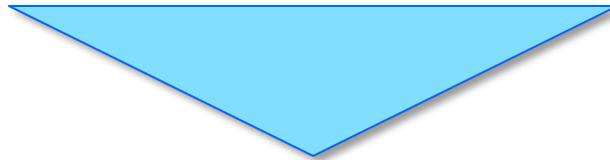
## 4. 質疑応答

# 免責事項

- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 本資料に記載した I F R S ベースの数値は、当社が参考値として策定した未監査の数値であることをご承知おき下さい。
- また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社または子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 本資料の数字は億円未満を切捨てて表示しており、合計額に差異が生じる場合があります。

# *Key Point*

- **営業収益はインライン**
- **営業利益は計画比未達**



**通期計画達成に向け取組みを強化**

- I. 国内金融事業：事業は順調**
- II. 韓国金融事業：事業は順調**
- III. 東南アジア金融事業：  
通期営業利益計画15億円達成に向け  
取組み強化中**

# 2016年3月期第1四半期決算概要

Point

## 連結P/L (J-GAAP)

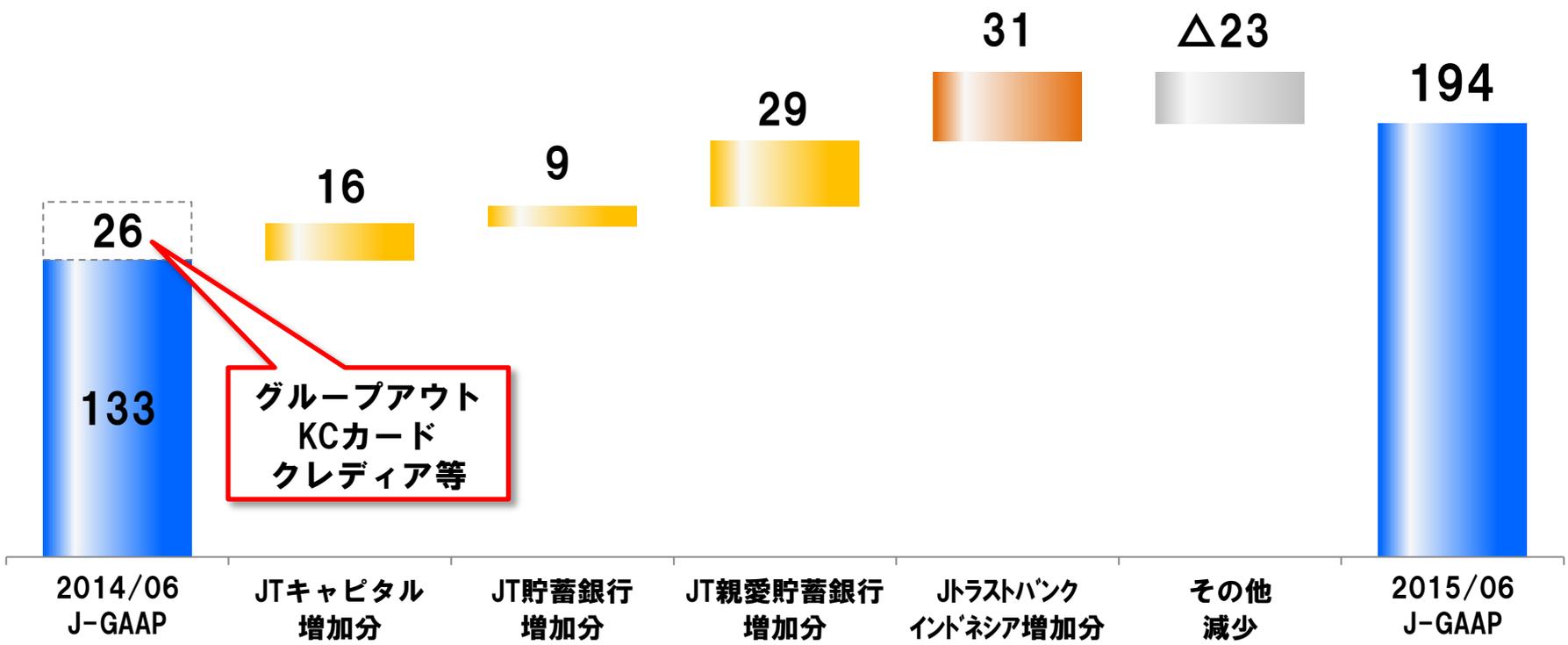
	2014/06	2015/06	差異
営業収益	159億円	195億円	36億円
営業利益	△3億円	△19億円	△16億円
経常利益	△3億円	△15億円	△12億円
親会社株式に帰属する 四半期純利益	△3億円	△27億円	△24億円
営業利益率	△2.25%	△9.73%	△7.48%
ROE	△0.23%	△1.48%	△1.25%

Point

➤ 連結子会社の増加とJT親愛貯蓄銀行の収益増加により前年同期比で増収

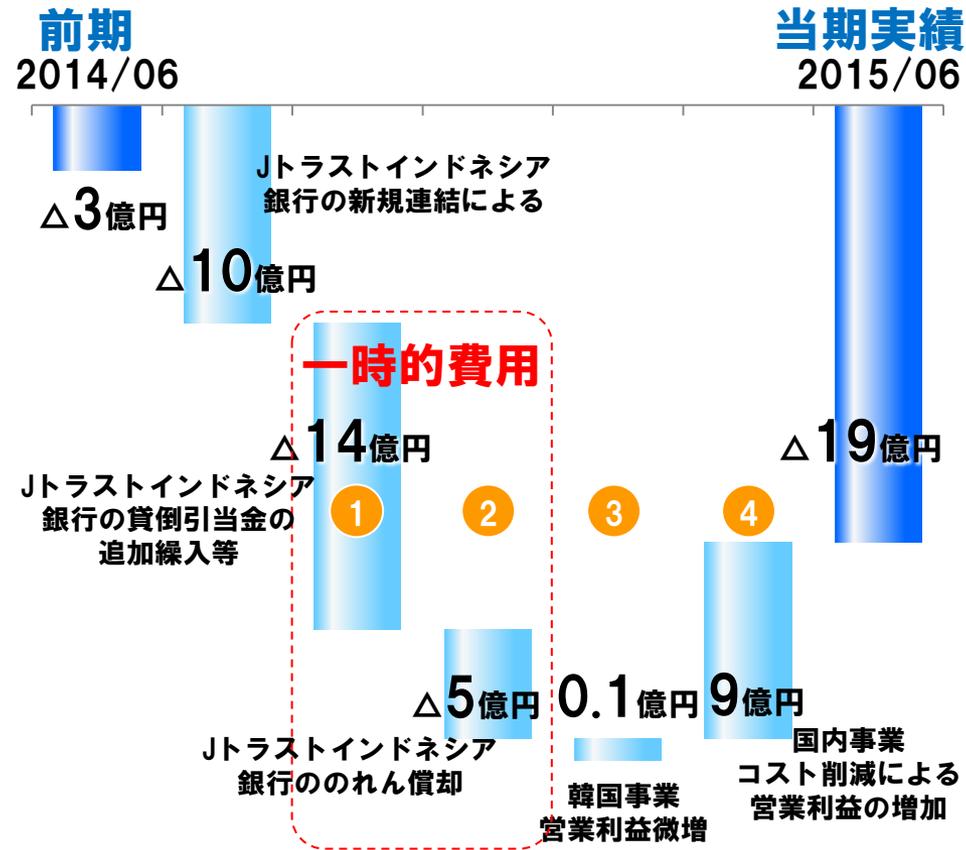
単位：億円

連結営業収益



Point

➤ 主にJトラストインドネシア銀行の貸倒引当金繰入およびのれんの償却により前年同期比で減益



1 Jトラストインドネシア銀行の財務健全性の向上に向け、不良債権処理を促進

- ・ Jトラストインドネシア銀行の財務健全性の向上に向け、不良債権処理を促進し、一時的に貸倒引当金繰入が増加
- ・ なお、2016年3月にIFRSの任意適用を予定しており、当第1四半期の決算数値は、当期の業績には含まれない

2 IFRSの任意適用時期の遅れにより、のれん償却額を計上

- ・ IFRSではのれん償却額について、減損テストをし、減損の兆候がなければ、費用計上はされないが、IFRSの任意適用時期が2015年6月から2016年3月に延期となった結果、費用計上することとなった

3 韓国事業の要因

- ・ 事業譲受や新規貸付の増加により銀行業における営業収益が増加
- ・ 延滞率の改善により、貸倒実績率が減少し貸倒費用負担が減少

4 国内事業の要因

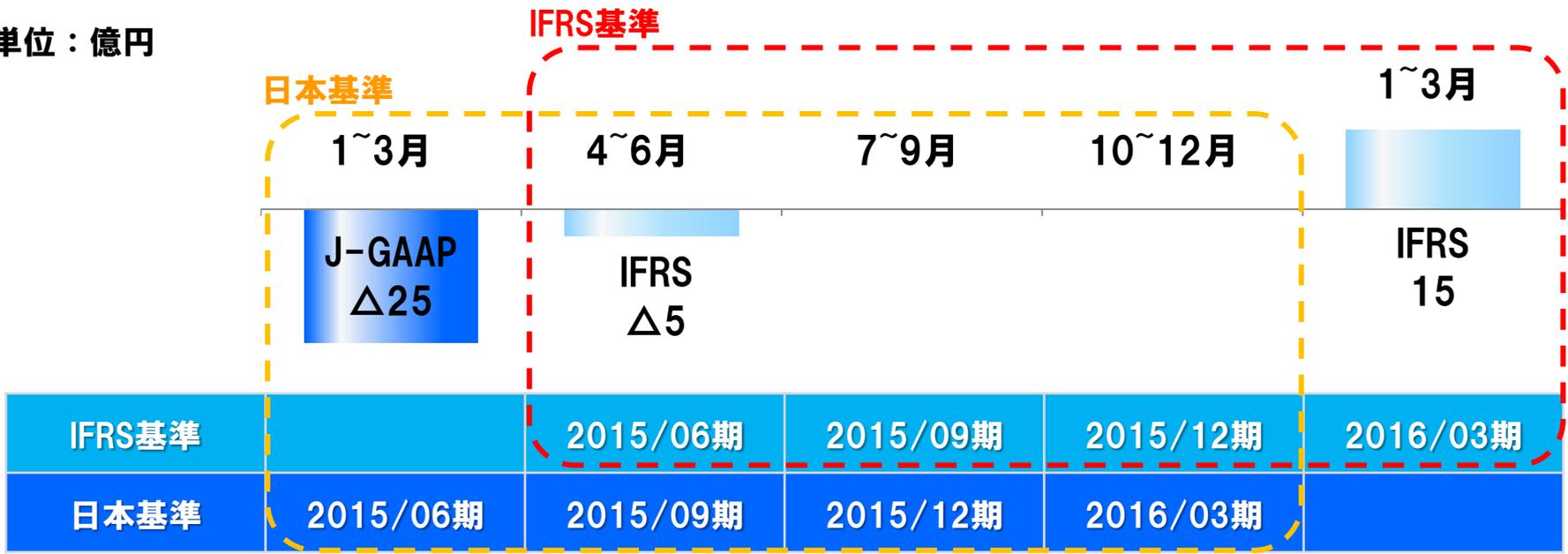
- ・ 日本保証の事業構造改革が進展し、販売費及び一般管理費のスリム化が寄与してきたことによる利益増加

**Point**

➤ **Jトラストインドネシア銀行の連結取り込みにおいて期ずれが発生**

■ **Jトラストインドネシア銀行 業績の取込みイメージ（営業利益）**

単位：億円



# セグメント別業績

# セグメント別業績/セグメント営業収益

## Point

- セグメント営業収益は順調に推移、但し国内金融事業はKCカードやクレディア等のグループアウトにより減収
- 韓国・東南アジアが成長のドライバー

	2014/06 J-GAAP	2015/06 J-GAAP	前期比
国内金融事業	52億円	28億円	△45.2%
韓国金融事業	49億円	74億円	+49.0%
東南アジア金融事業	-	32億円	-
非金融事業	57億円	61億円	+4.1%
合計	159億円	194億円	+22.4%

※合計は連結調整後の数値

## Point

- 国内は安定推移
- 韓国は黒字化
- 東南アジアは貸倒引当金の繰入等により計画比未達

	2014/06 J-GAAP	2015/06 J-GAAP	前期比
国内金融事業	10億円	9億円	△10.7%
韓国金融事業	△12億円	0.1億円	+12億円
東南アジア金融事業	-	△25億円	-
非金融事業	3億円	2億円	△42.1%
合計	△3億円	△19億円	-

※合計額は連結調整後の数値

# 国内金融事業

## Point

- **無担保ローン事業を大幅に縮小し、不動産担保ローン、債権回収事業、保証事業に注力**

## 国内金融事業

- **KCカード/クレディアがグループアウトした分、営業収益は前年対比減少したものの、営業利益は前期比増益**
- **武富士の簿外債権の回収は順調に推移**
- **希望退職により人件費は前期比15億円削減予定、KCカード/クレディア等のグループアウトによる影響をカバー**
- **債権回収業はおおむね順調**
- **信用保証事業は下期残高積上げに向けアパルトローンの営業を強化**

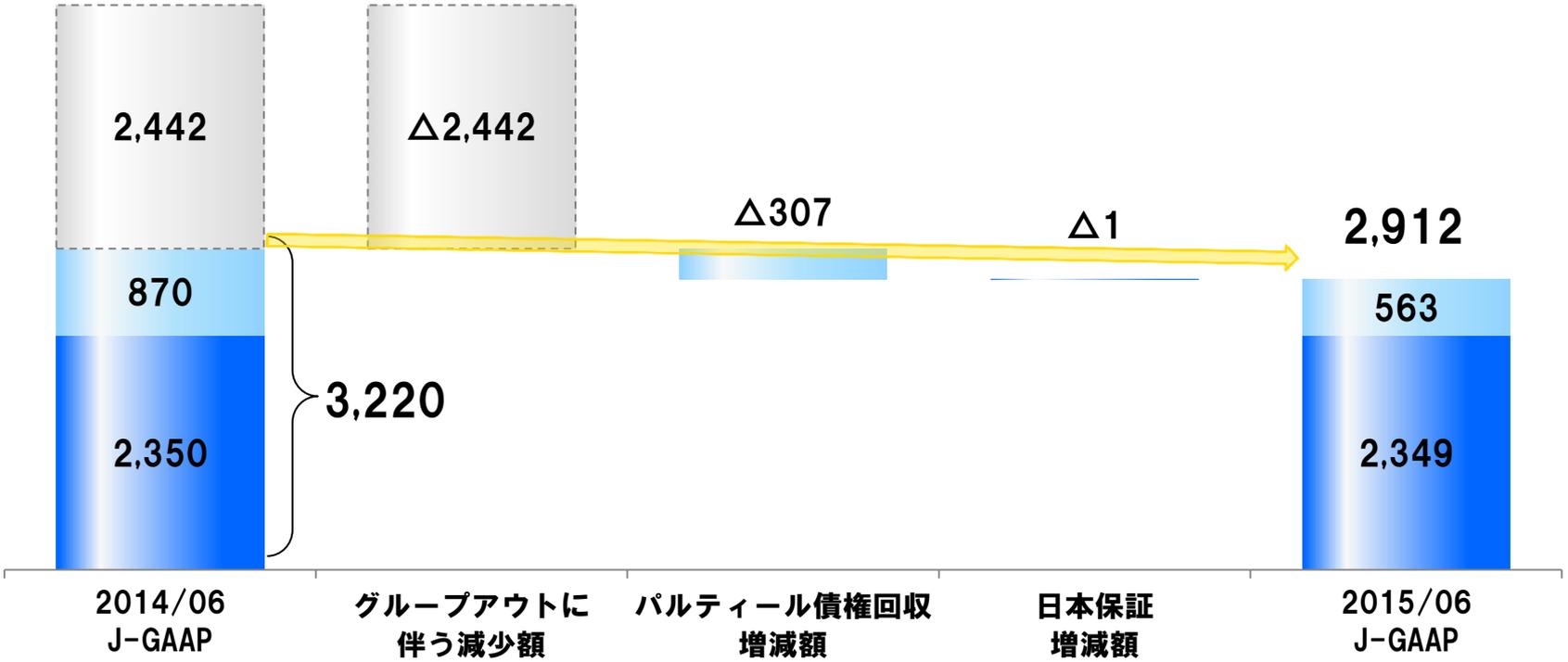
Point

➤ 信用保証事業および債権回収事業が収益の柱となる

単位：百万円

国内金融事業セグメント営業収益

■ 日本保証 ■ パルティール債権回収 ■ グループアウトの会社分



※各事業会社の営業収益を単純合算のため、グラフ内に記載の個社実績に内部収益等は未控除

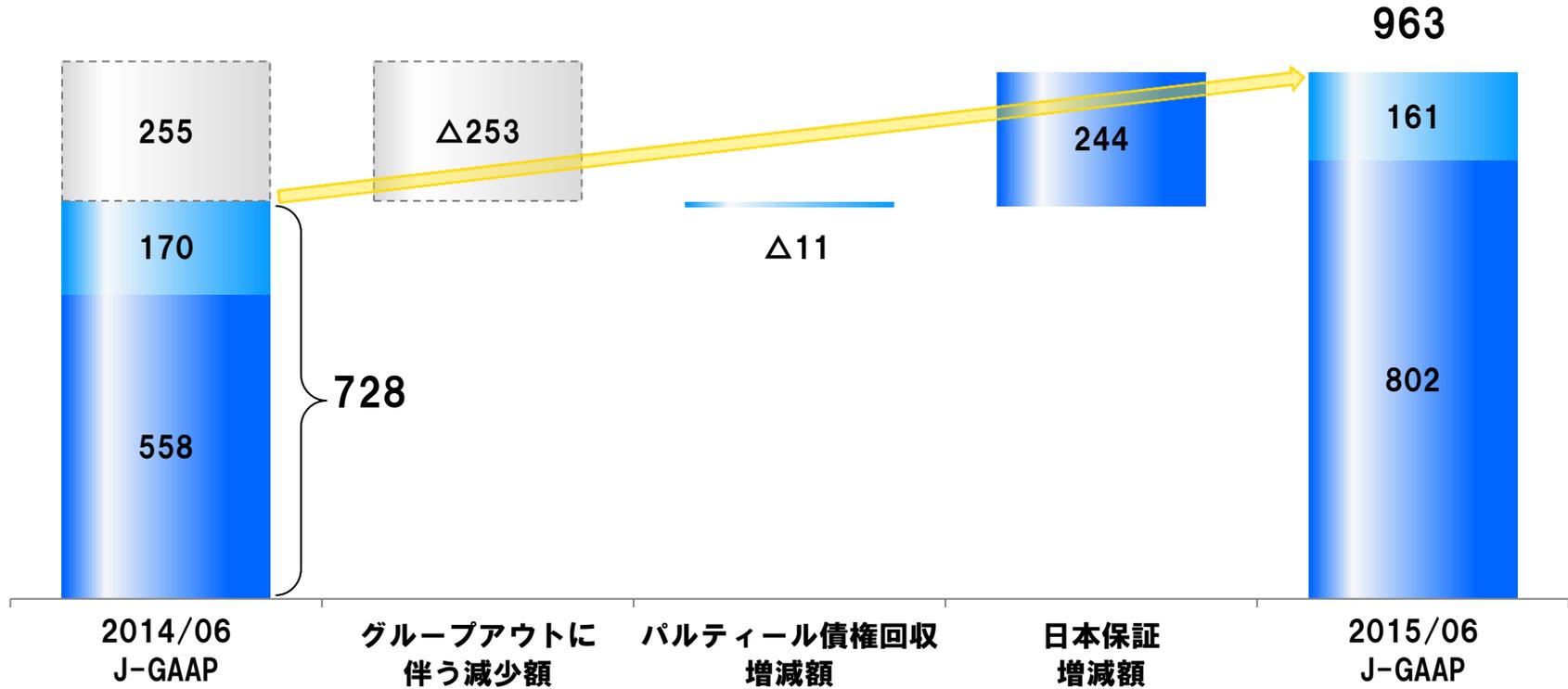
Point

➤ グループアウトの会社分の利益を日本保証が補完

単位：百万円

国内金融事業セグメント営業利益

■ 日本保証 ■ パルティール債権回収 ■ グループアウトの会社分



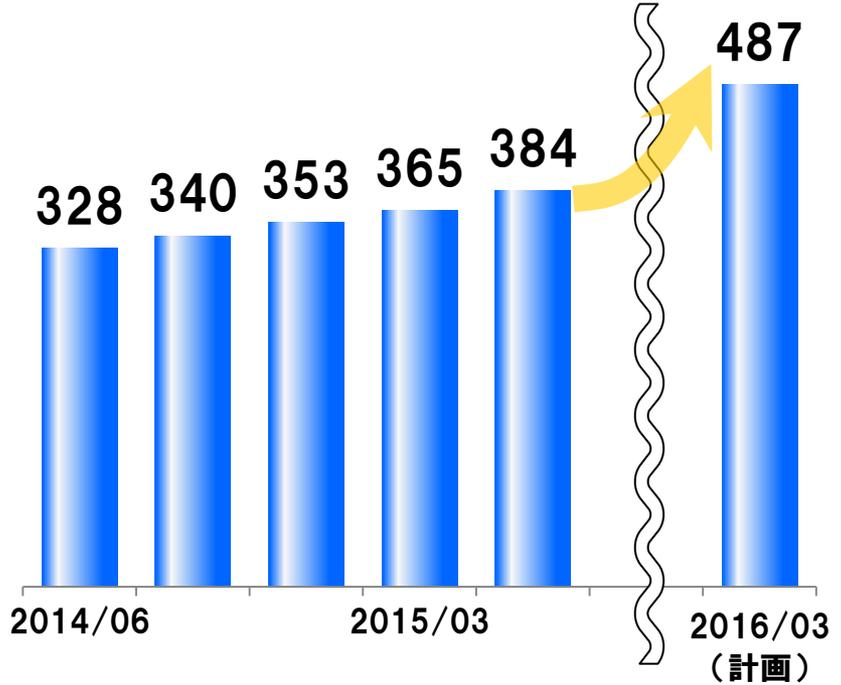
※各事業会社の営業利益を単純合算のため、グラフ内に記載の個社実績に内部利益等は未控除

## Point

- 保証残高は現在微増も、今期487億円に向け進捗中
- アパートローンを軸に今後もアセットを積上げ

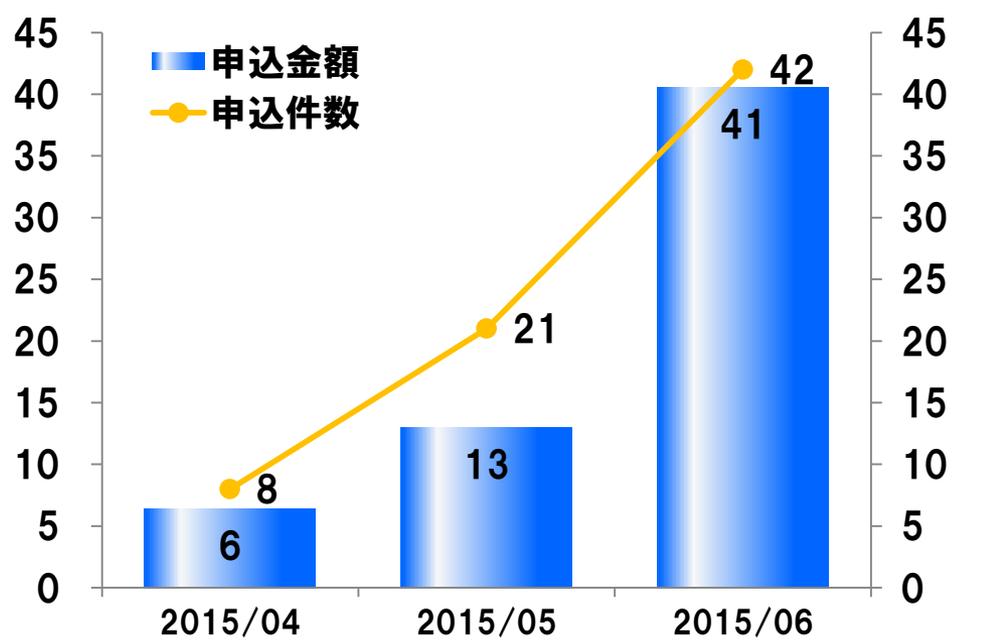
### 日本保証における保証残高の推移

単位：億円



### アパートローン申込み状況

単位：億円

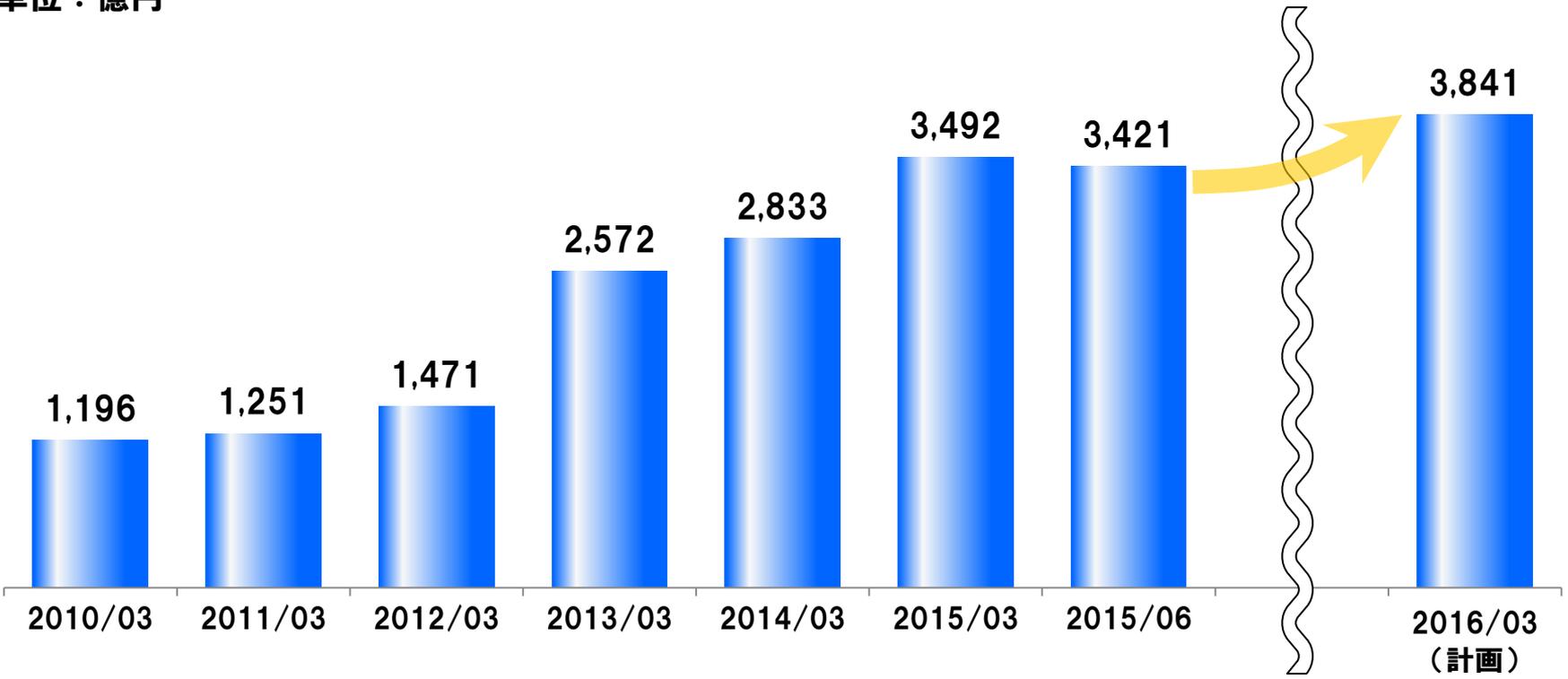


Point

- 2015年6月時点では微減も足元では増加
- 請求債権残高は計画以上の着地を見込む

請求債権残高の推移

単位：億円

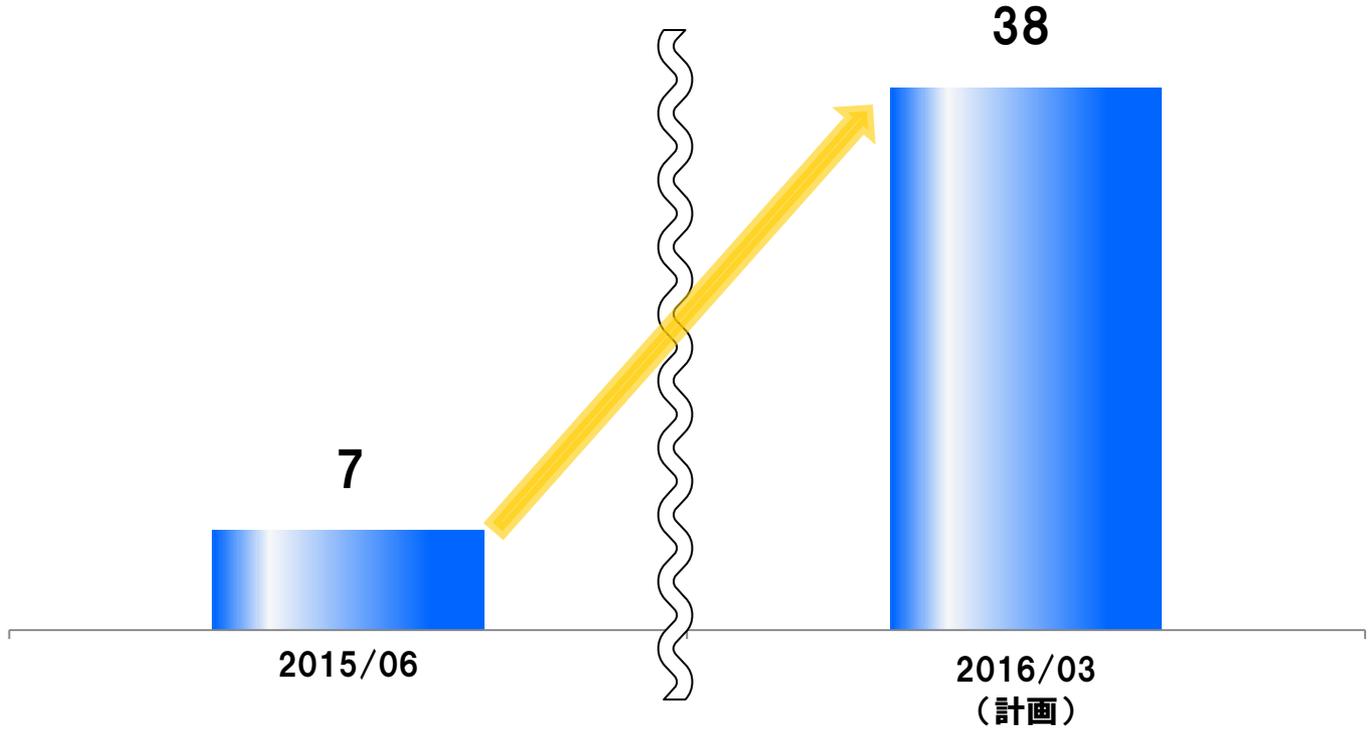


Point

- 債権買取回収高は中期経営計画対比の進捗率18%
- 請求債権残高を増やし回収額をアップ

買取債権回収高の推移

単位：億円



# 韓国金融事業

## Point

- 貯蓄銀行から債権回収事業まで、グループ内の相互連携を通じて債権残高を積極的に積み増す

## 韓国金融事業

- JT貯蓄銀行、JTキャピタルが加わり韓国営業資産が2,000億円に
- JT貯蓄銀行のグループインにより営業エリアが韓国の約70%となり、マーケティングターゲットが拡大
- JTキャピタルのグループインにより信用等級の高い優良顧客の獲得が可能
- 預貸率については今後も改善の余地あり（6月末現在81.1%）

## Point

- 貯蓄銀行業界における資産規模ランキング  
2行を合せると総資産では業界第3位

単位：億ウォン

No	本店場所	貯蓄銀行	資産
1	ソウル	SBI貯蓄銀行	38,539
2	ソウル	HK貯蓄銀行	20,287
3	ソウル+京畿道	JT親愛貯蓄銀行+JT貯蓄銀行	18,509
4	京畿道	韓国投資貯蓄銀行	15,779
5	仁川	モア貯蓄銀行	14,749
6	ソウル	OK貯蓄銀行	14,468
7	ソウル	JT親愛貯蓄銀行	14,170
8	ソウル	OSB貯蓄銀行	11,786
9	ソウル	ドンブ貯蓄銀行	11,254
10	ソウル	ハナ貯蓄銀行	10,437
.			
30	京畿道	JT貯蓄銀行	4,339
.			
78	慶尚北道	デア貯蓄銀行	298
79	慶尚北道	デウォン貯蓄銀行	256

※ 2015年3月末現在

# 韓国金融事業/セグメント営業収益

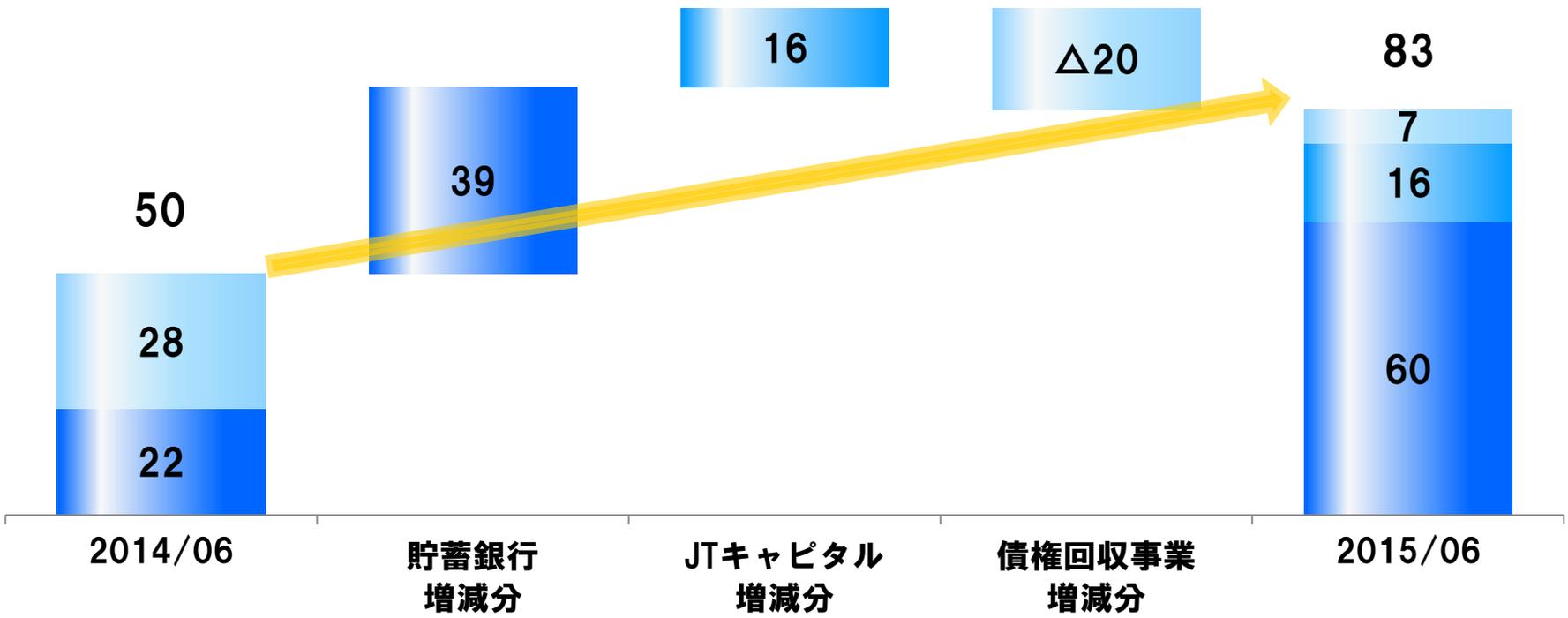
**Point**

➤ 昨年グループ入りしたJT貯蓄銀行およびJTキャピタルの収益寄与とJT親愛貯蓄銀行の収益増により増加

単位：億円

## 韓国金融事業セグメント営業収益

■ 貯蓄銀行    ■ JTキャピタル    ■ 債権回収事業



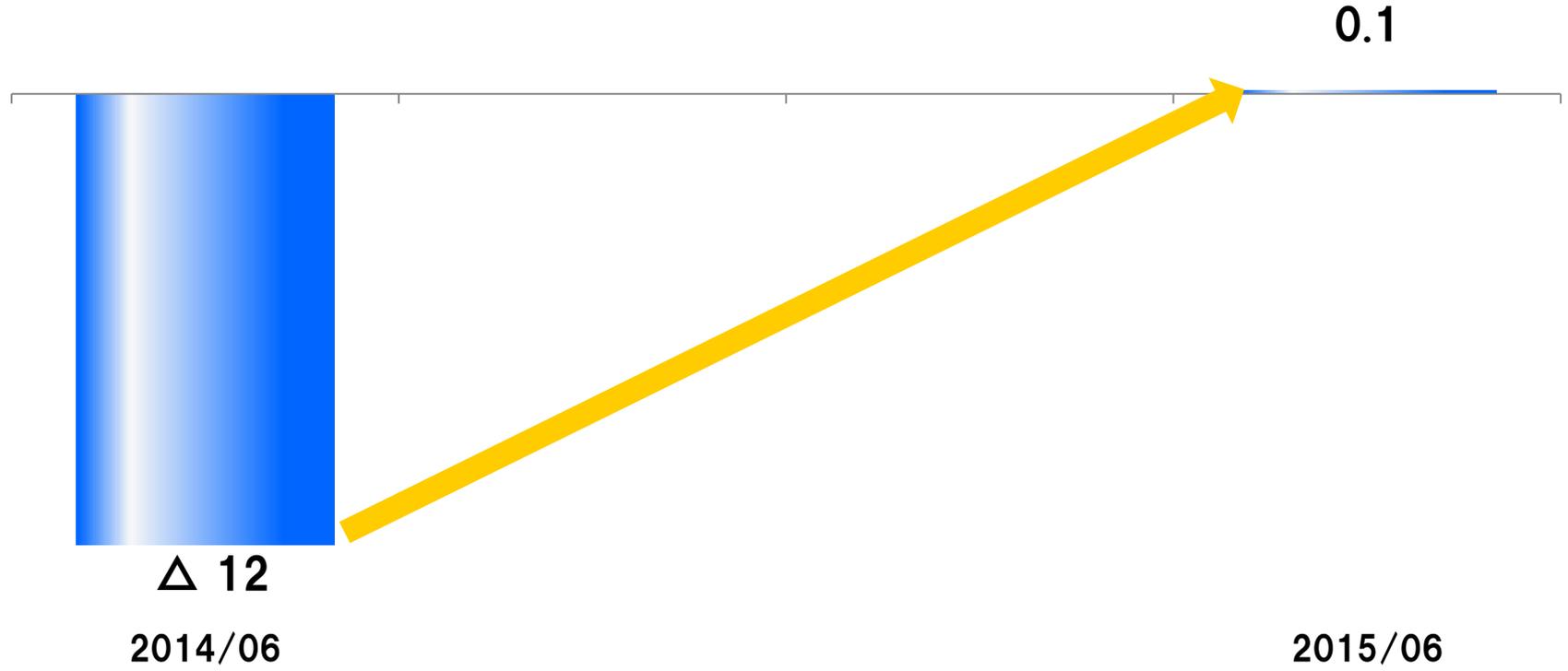
※各事業会社の営業収益を単純合算のため、グラフ内に記載の個社実績に内部収益等は未控除

**Point**

➤ **韓国金融事業は黒字化を達成**

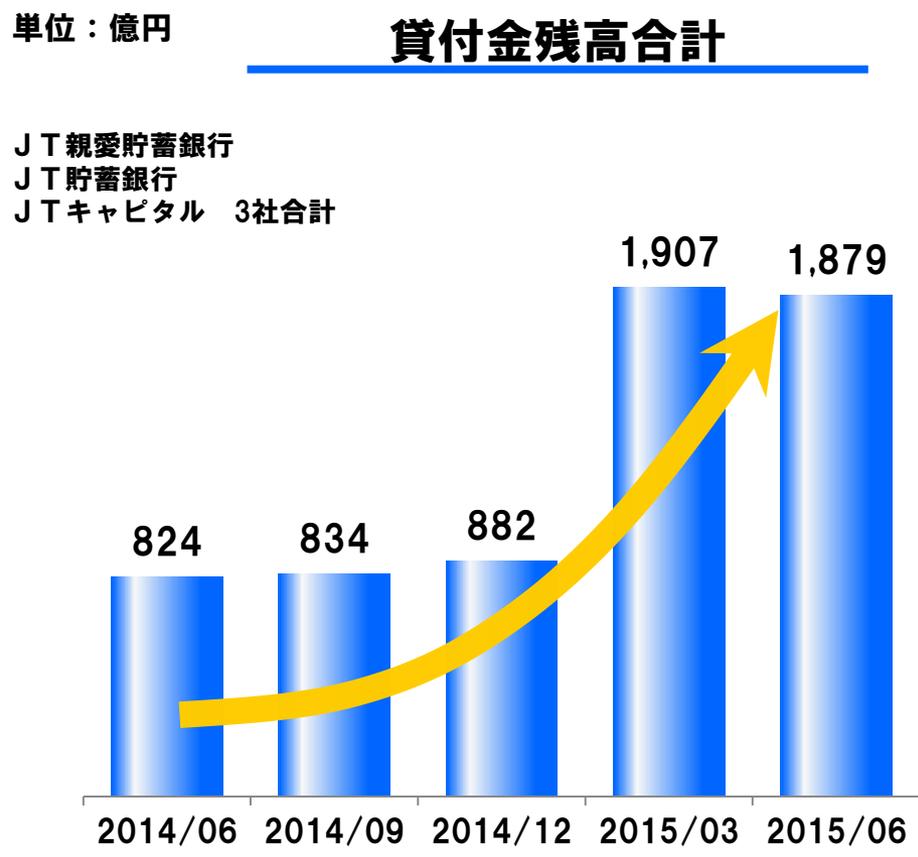
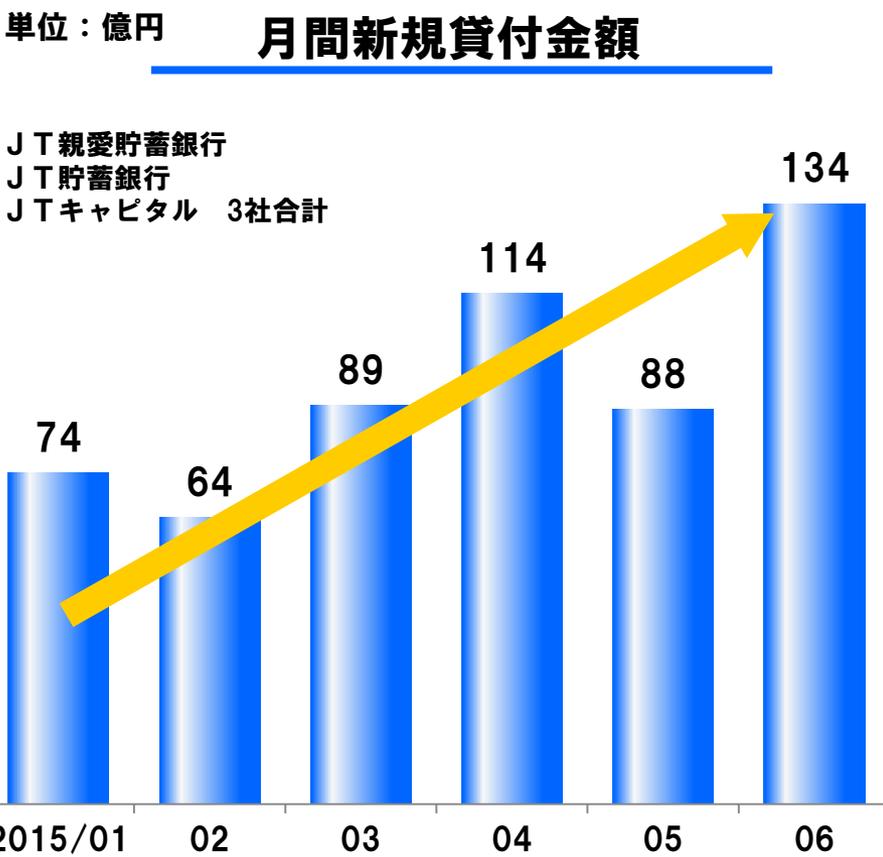
単位：億円

## 韓国金融事業セグメント営業利益



## Point

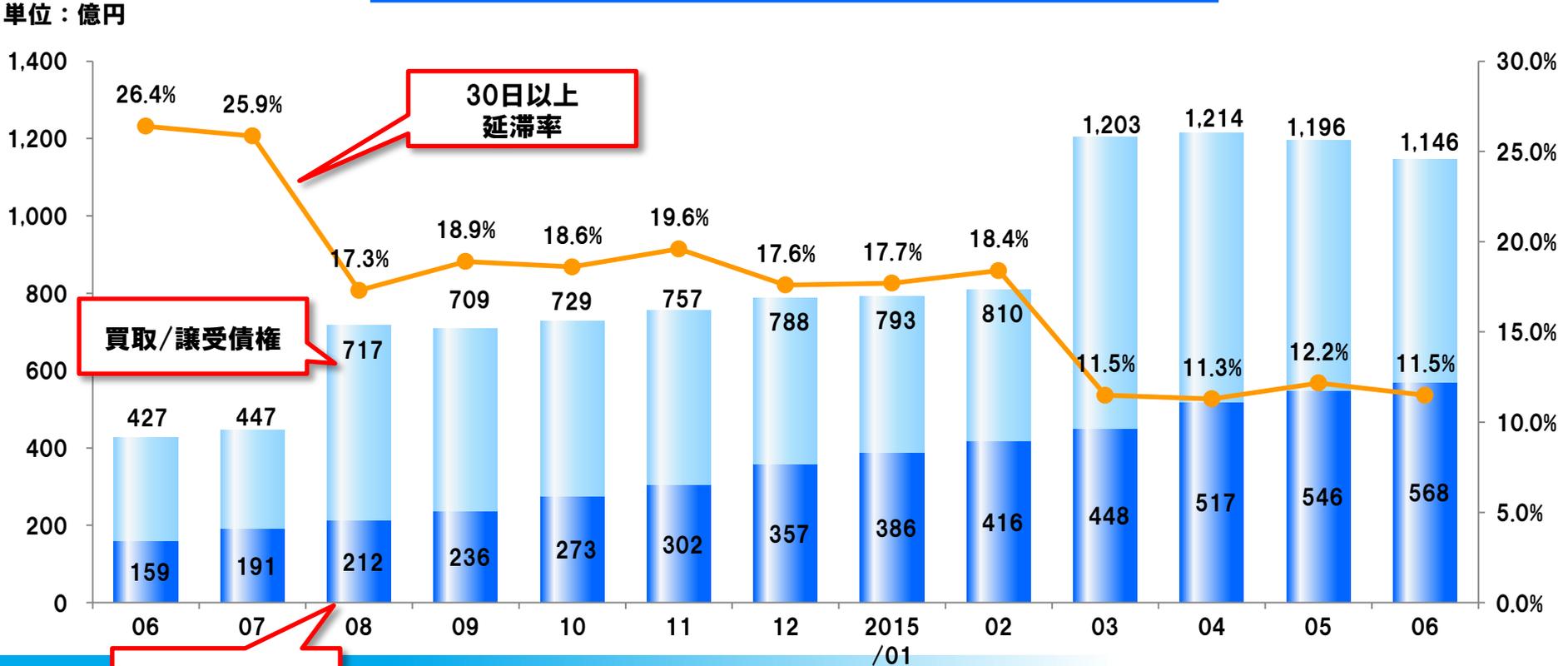
➤ 新規貸付金額の増加にともない、貸付金残高は着実に増加



Point

➤ 当社与信により債権の「質」が向上し、延滞率も徐々に低下

J T 親愛貯蓄銀行の残高および不良債権推移



新規与信債権

買取/譲受債権

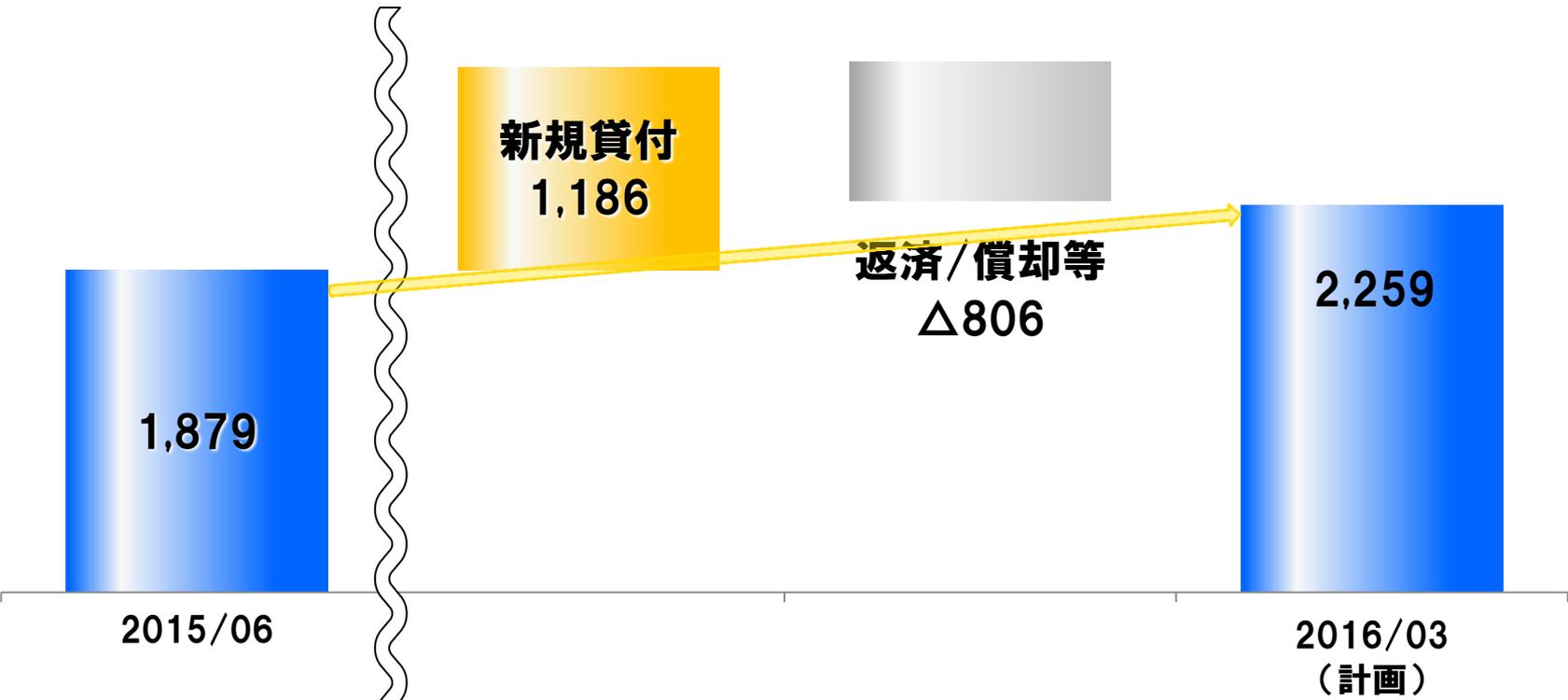
30日以上延滞率

## Point

- 主に新規貸付で営業資産を増加
- 債権買取案件があればプラスアルファで寄与

単位：億円

### 韓国金融事業の残高積上げイメージ



Point

- 債権回収会社が増加し、貯蓄銀行やキャピタル会社の不良債権は高値売却が可能に

## ■ 状況

- プレイヤーが増加し不良債権の価格高騰のため、債権回収会社としては、低価格での買取が難航



- 貯蓄銀行やキャピタルが保有する不良債権が高値で売れる



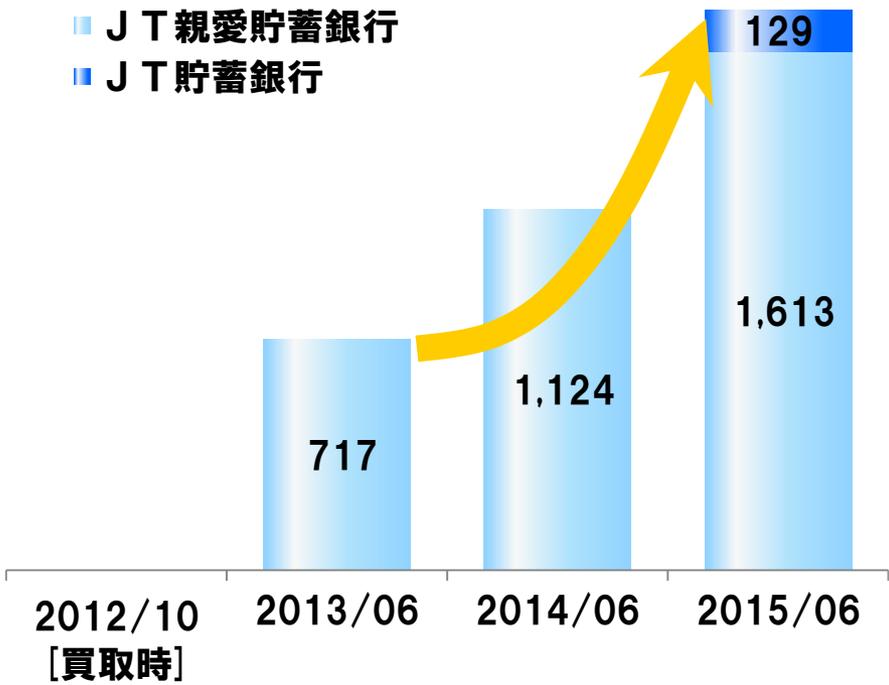
韓国のグループ全体ではポジティブ

**Point**

➤ 貯蓄銀行2行の営業利益は、韓国基準では  
2015年3月期より黒字転換 (J-GAAPも2行で7億円の黒字)

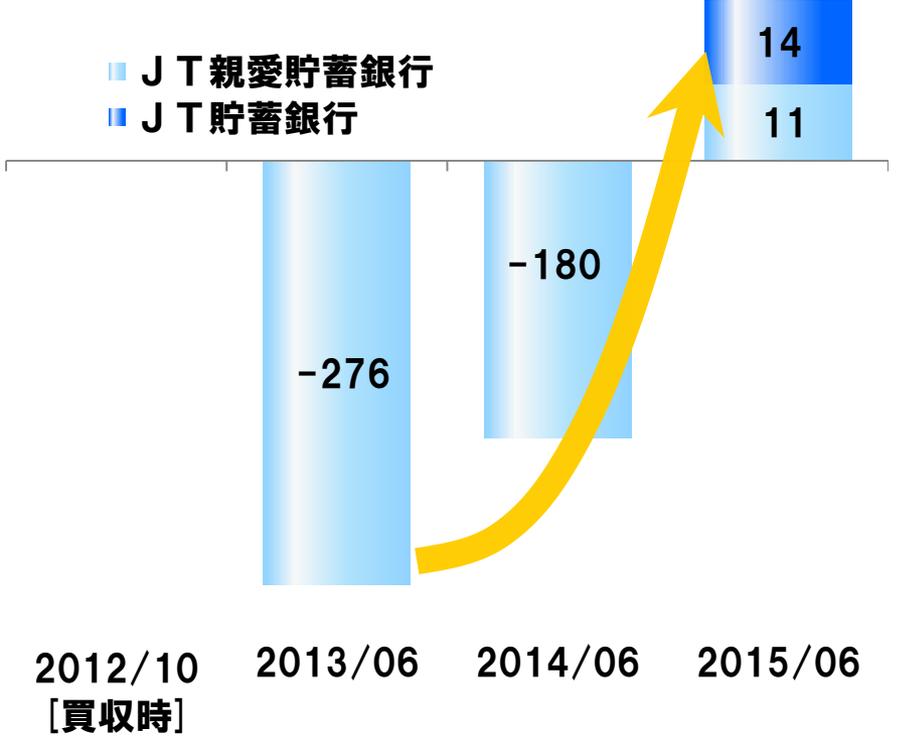
**営業収益 (K-GAAP)**

単位：億ウォン



**営業利益 (K-GAAP)**

単位：億ウォン



# 東南アジア金融事業

## Point

- **不良債権の回収を収益源とし、2年目以降の利益創出のため営業基盤の整備を実施**

## 東南アジア 金融事業

- **Jトラストインドネシア銀行に社名変更しブランディング開始**
- **経験豊富な経営陣を送り込み 事業改革を実行**
- **有能な人材を積極採用し営業及び不良債権回収を強化**

Point

- 会計基準相違によるギャップと営業の遅延により  
計画比未達

■ Jトラストインドネシア銀行 業績の取込みイメージ

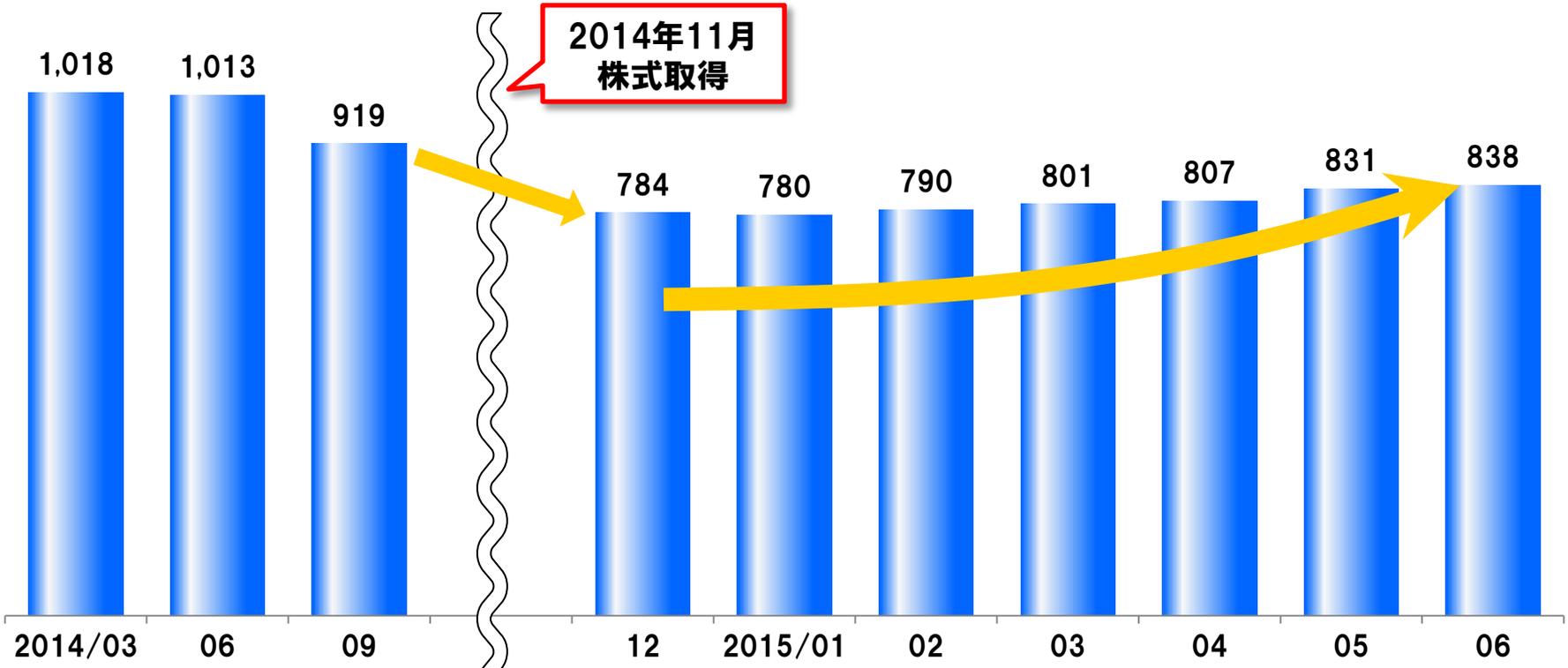
	2015/1~3 (J-GAAP)	2015/4~6 (IFRS)	差異
セグメント営業収益	32億円	29億円	△3億円
セグメント営業利益	△25億円	△5億円	20億円

## Point

- 買収前に減少し続けていた営業資産が増加
- 通期計画1,095億円達成へ向け対策を講じ事業を推進

単位：億円

### 営業資産残高

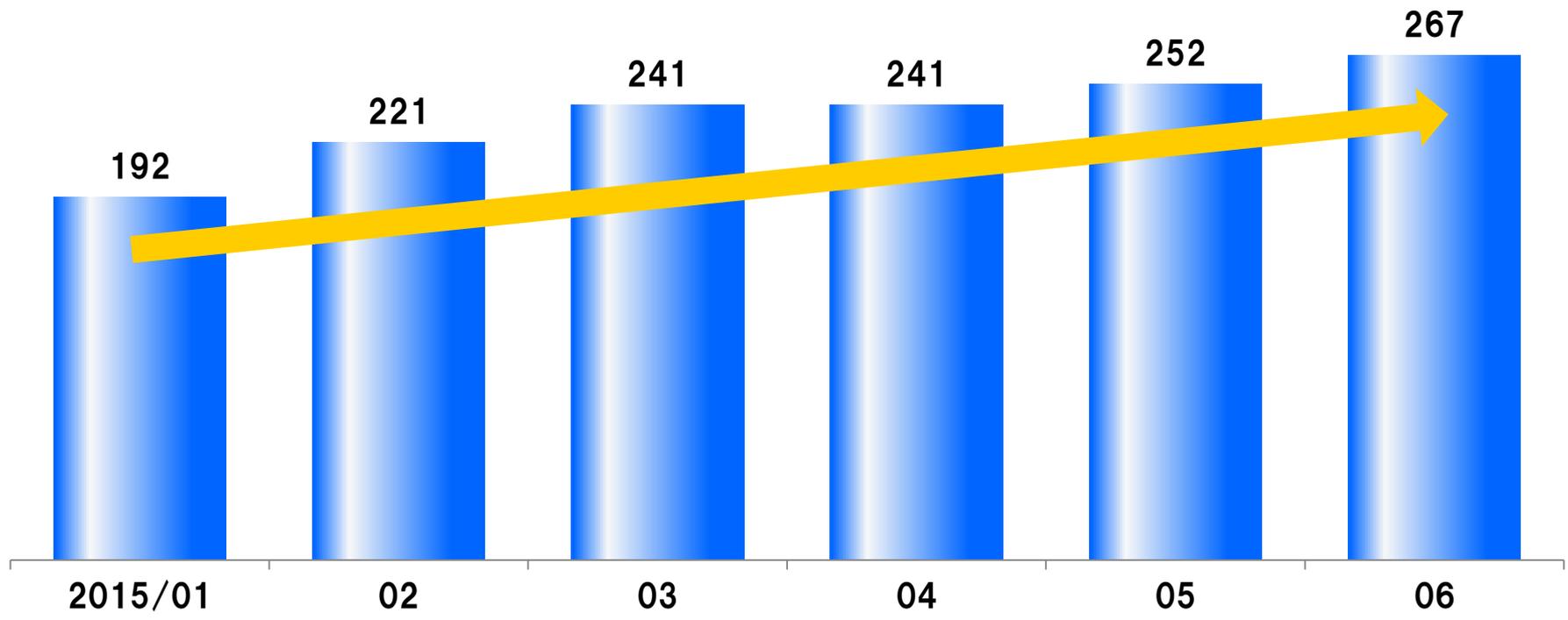


Point

➤ マルチファイナンス会社との提携ローンは順調に推移

単位：億円

マルチファイナンス向けローン残高



Point

- **新経営陣の積極的なコントロールによる立て直し**

■ **営業資産の残高増加、貸出金利引上げに向けた取組み**

1. **経験豊富な人材の採用⇒12月迄に100人+α人採用予定  
支店における貸付拡大を目指す**
2. **タイのパートナーであるグループリース社とのインドネシア  
において協業を検討**
3. **株式10%を保有するマヤパダ銀行からの顧客紹介スキーム  
樹立**

Point

- **平均預金金利は今期末計画8.2%に向け順調に推移**

	2015/01	2015/02	2015/03	2015/04	2015/05	2015/06
平均預金金利	9.30%	9.13%	8.85%	8.97%	8.87%	8.43%

■ **預金金利（調達コスト）を低下させるための施策**

1. **大口預金顧客の非常に高い金利の定期預金を満期時に交渉し低い預金へ誘導**
2. **ネットバンキングを開発し利便性を向上させ、CASA比率を高める（9月末導入予定）**
3. **日本など低金利国における預金獲得スキームの構築  
⇒年度内導入に向け進捗**

Point

- **対策を講じ 早期に不良債権の圧縮を図る**

## ■ 不良債権を圧縮させるための施策

1. **要注意先特別対応プロジェクトチームを組成  
⇒早期対応**
2. **9月末を目途にファイナンスカンパニー（アセットリカバリー/  
新会社）を新規に設立し、不良債権を移転  
⇒日本保証やパーティール債権回収からスペシャリストを  
派遣し、経験を持つ現地人材と共に回収を強化**

Point

- **通期営業利益15億円達成に向けたさまざまな対策を講じ事業を推進**

## ■ 更なる取組み

1. **ムティアラ銀行からJトラストインドネシア銀行へ社名変更**  
⇒ブランドの統一化とJAPANブランドであることの浸透  
⇒同時に組織改革プランを発表し、組織の効率化を図る
2. **人事システムの変更**  
⇒KPIと連動した報酬型人事制度の導入を検討
3. **海外向け貸付増大への取組み**  
⇒保証事業における提携銀行との連携により、現地に進出している日本企業への貸付を図る
4. **手数料収入増大への取組み**  
⇒SMS/モバイルバンキング導入による送金、振替手数料増加  
⇒提携両替所への営業強化による為替手数料増加

# 非金融事業

## Point

- 不採算事業からの早期撤退
- 収益計画は減少するも利益計画は遂行

## 非金融事業

- ・ 日本介護福祉グループをグループアウト  
(後発事象)
- ・ 特別損失9億円を計上

## ■ 非金融事業にセグメントされる会社

- ・ Jトラストアジア
- ・ キーノート
- ・ アドアーズ
- ・ ブレイク
- ・ ハイライツエンタテインメント
- ・ Jトラストシステム

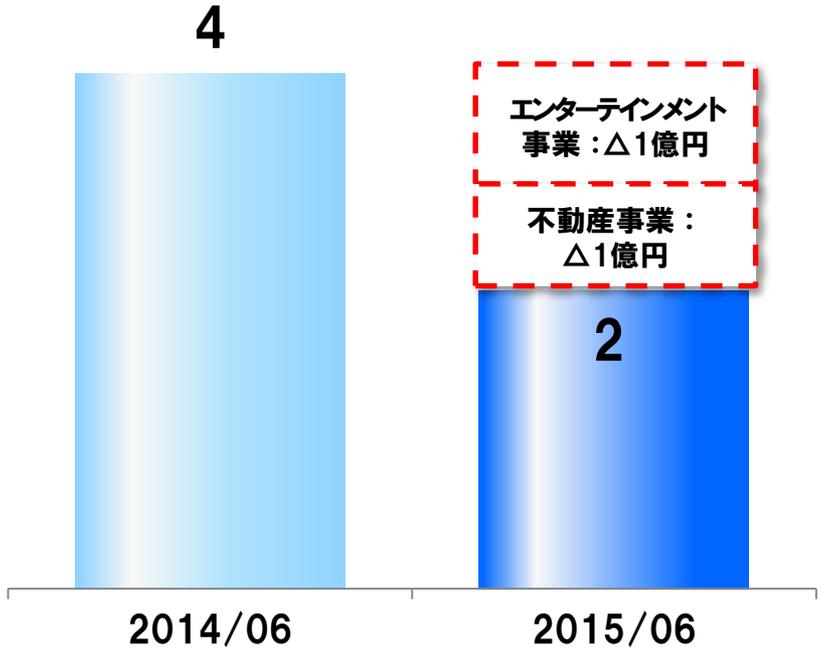
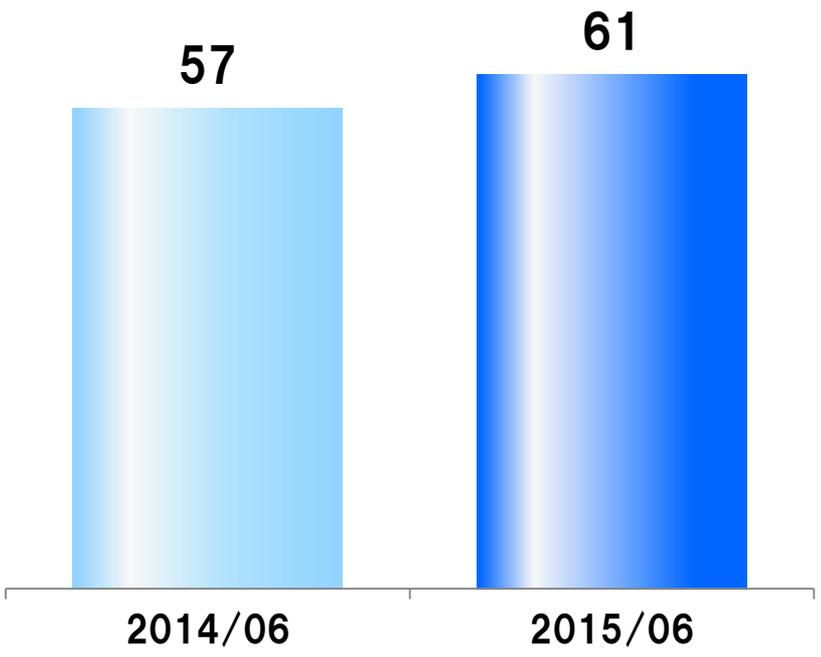
Point

➤ 営業利益の減少要因は、総合エンターテインメント事業および不動産事業の利益減少が影響

単位：億円

営業収益

営業利益



# その他

# 自社株買い

インサイダーフリーが条件



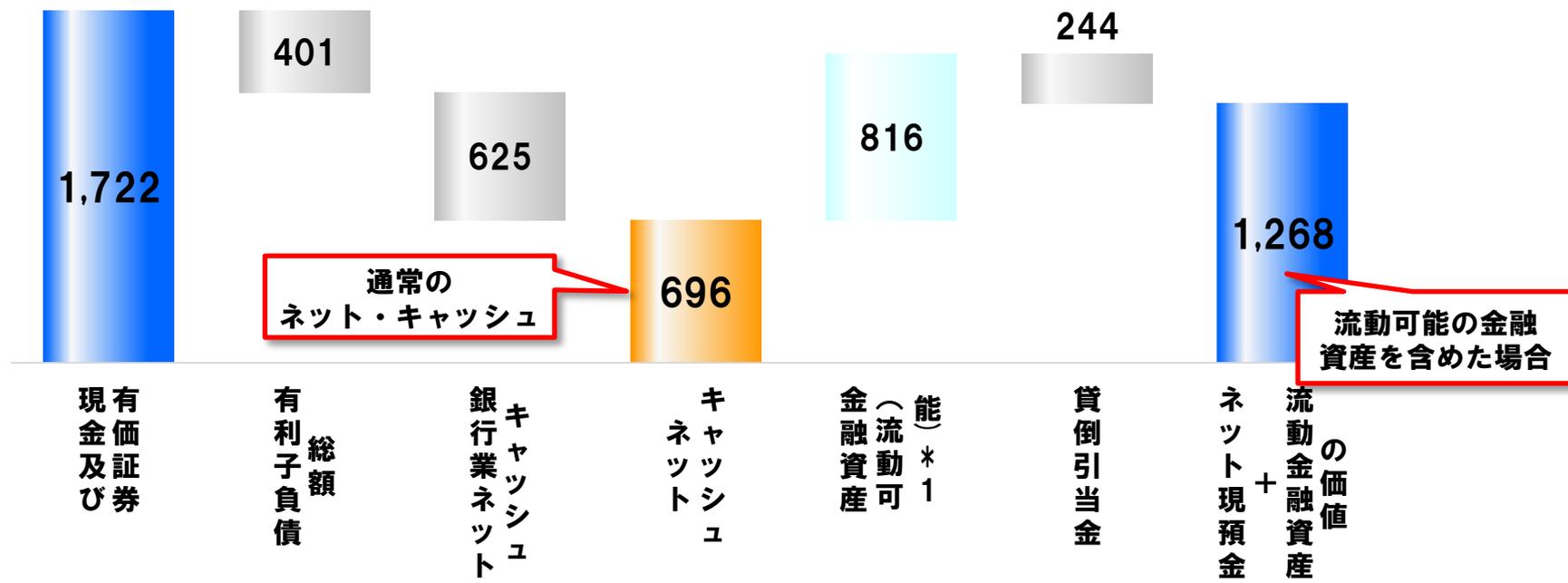
- M & A等の重要事項がない事
- 決算発表直前（クワイエットピリオド）

Point

➤ ネット・キャッシュ+金融資産は1,268億円

ネット・キャッシュ+金融資産の計算方法

単位：億円



※1 金融資産：2015年6月期の商業手形、営業貸付金、割賦立替金、買取債権、求償権および営業投資有価証券の合計額

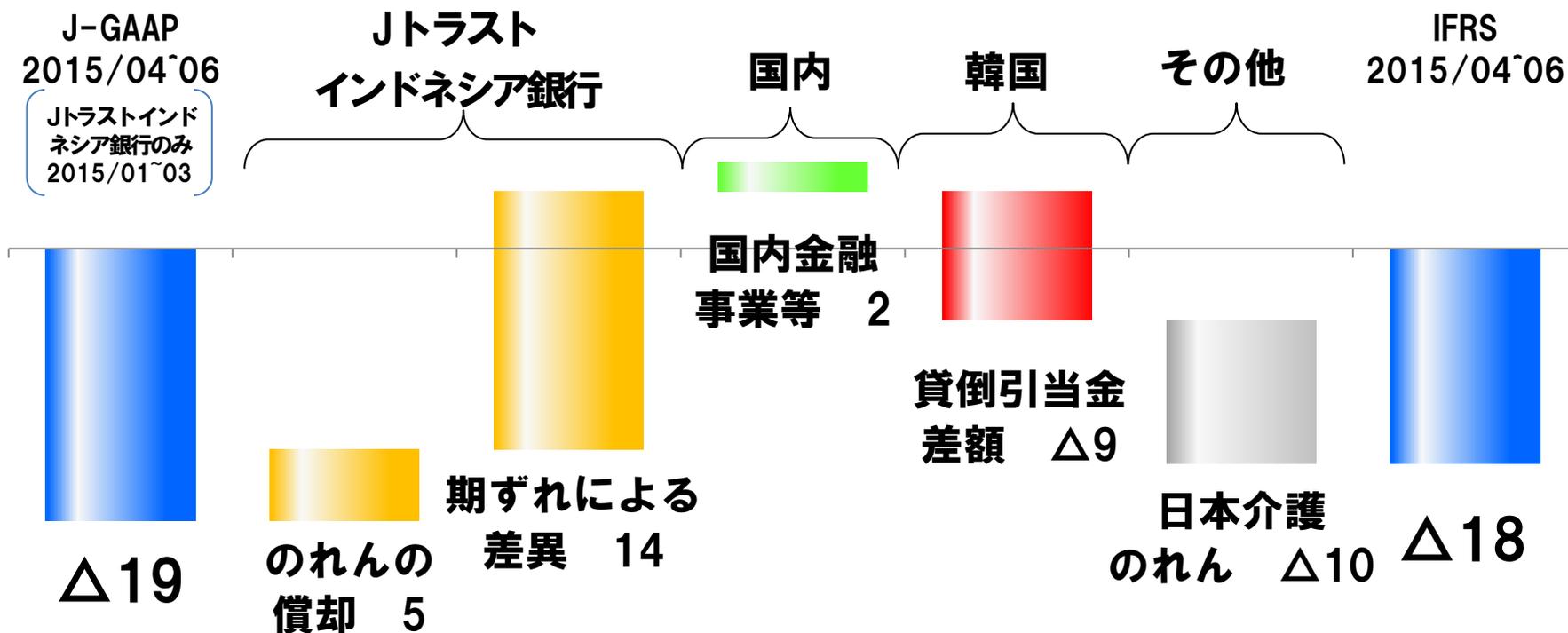
# APPENDIX

## Point

- J-GAAP基準における営業利益は△19億円
- IFRS基準における営業利益は△18億円

### 連結営業利益

単位：億円



## Point

### ➤ 韓国金融事業における貸倒引当率の違い

#### ■ IFRSへ移行するにあたり、業績へ与えるマイナス影響

- ・ 貸倒引当金基準の相違から、差額△9億円が発生

#### ■ 例) JT親愛貯蓄銀行における引当率の相違

	引当金基準
K-GAAP	✓ 金融監督院による指針により無担保正常債権に一律0.5%を乗じた引当金を計上
J-GAAP	✓ 実績に基づいて引当率を算出 無担保正常債権への引当率は1.67%
IFRS	✓ 無担保正常債権に一律7%を乗じた引当金を計上

#### 《今後の対策》

- ・ 現在精緻な引当金ロジックおよびトレンド反映ができるよう、電算システムを開発中。完成後、銀行創業後3年半のトレンドへの修正見込み

